

例会のお知らせ

3月の例会：第8回“航空気象”のシンポジウム

(日本航空学会と共催)

日時：昭和34年3月18日(水)午後1時より

場所：東京国際空港会議室(東京都大田区)

研究発表

1. 山本芳政(東京航空)：飛行機観測による低気圧および前線附近のシグ・メットの分布(15分)

1954年以降、全国航空気象官署職員の行った慣熟飛行報告と日本航空のパイロットの報告を基にして、低気圧や前線付近の雲、タービュレンスおよび着氷などの分布を調べたのでその結果を報告する。

2. 杉本 豊(東京航空)：発達した低気圧における高々度解析について(20分)

1959年1月29日より同31日にかけて日本近海で発達した低気圧の高々度解析をこころみたのでその結果求めた2, 3の結果を報告する。

3. 山田直勝(東京航空)：北太平洋地域における渡洋航空路の気象学的考察(第一報)一東京シアトル間往航(east bound 500mb)の最短飛行時間航

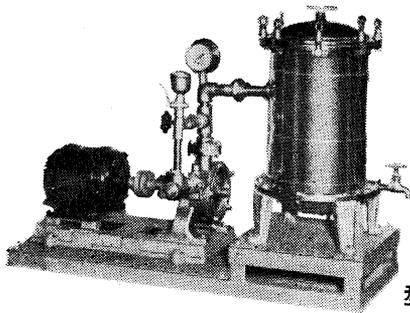
空路一(30分)

1956年9月~1957年8月の500mb 天気図を用い、飛行機の巡航速度270ktsとして、日々の最短飛行時間航空路(Minimal Flight Path)とその所要時間および大圏コース飛行所要時間を決定した。これらの資料をもとにして種々統計を行った結果北太平洋地域では3, 5, 6, 11および12月にMFP航法が有効であり、これを採用することにより有効月には1~2割飛行時間が短縮できることがわかった。併し現用飛行機の性能からは、渡洋飛行の可否が問題であり、13時間30分以内で渡洋飛行の有効月は4, 10, および11月となる。なお実用的見地から渡洋飛行の有効に行える場合数例について気象学的考察を行った。

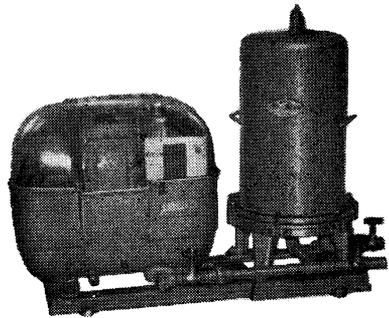
4月の例会……………休み

どなたも 微粒細菌も薬品を用いず唯一回で除去する…………

日隴式の 濾過機 超精密



No. 7 型 精、濾水機 (毎時980立)



No. 206 型 精密濾水機 (毎時1,100立)

型録進呈

誌名記入の上
御申越下さい



日本隴水機工業株式会社

本社 横浜市南区井土ヶ谷中町91 TEL. 長者町 (3) 0184・0979
 東京営業所 東京都千代田区神田旭町13 TEL. 神田 (25) 1696・8879・9976
 大阪営業所 大阪市北区旅籠町27 TEL. 堀川 (35) 6545・1934